

I 経営の重点に関わること評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1教育・保育目標	2重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心も体も元気な子	「やりたい」「いいね」が あふれる子	体を動かす心地よさを味わい、喜んで遊ぶ	・今年度はさくらんぼリズムを意図的に取り入れたことで、体の動きがしなやかになったように感じる ・可動遊具や行事、日々の遊びの中で保育者が子ども達の興味関心を捉え、発達に合わせた環境を整えたことで、体を動かし楽しむ姿があった	A	A	・運動遊びの会での姿を見ると体を動かすことをみんな楽しんでいる。当日の姿は良かった ・年長に憧れをもったり、年下の子に親しみを持てるような運動遊びの会になってほしい	・各歳児の興味関心をおさえ、乳児期から幼児期の育ちや力を職員間で共有する ・子ども達が「やってみたい」と心が動く環境を保育者が一緒に作っていくことで、体を動かす心地よさや楽しさを育てていく ・引き続き、子ども達が安心して自分を出せるよう関係を築いていく。受け止めてもらう経験から相手の気持ちを受け止めることのできる子どもを育てていく ・言葉だけでなく、音楽や絵画、造形など様々な形で表現できる子どもを育てていく ・保育者が子ども達の姿を肯定的に見ていき発信することで、子ども達もお互いの良さを認め合えるようになってくるのではないかと、年齢によっては、保育者ではなく子ども同士で認め合えるようになってくる。そのため、年齢に合った関わりを保育者が丁寧に行っていく
		自分の思いや感じたことを言葉や行動で表現している	・保育者との関係を築くことで、子ども達は自分の思いや感じたことを、安心して態度や表情、言葉など、発達に見合った形で発信している。 ・担任以外の職員や、友達に言葉で伝えようとしている	B	A	・個性があることを十分に踏まえ、発信できているという事が大事なのではないか	
		友だちの良さを知りながら一緒に遊ぶことを楽しむ	・友達と思いの違いからぶつかることもあるが、「友達と一緒に楽しい」に喜びを感じながら遊ぶ姿が見られるようになってきた	A	A	・異年齢の交流もできている。休みに出会った子に対して優しく接することができ、成長を感じた	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1こども園における教育及び保育	(1) 0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や経験を把握し、様々なひとやもの、自然とかかわっている	・発達を抑え様々な人、もの、自然との関わり、経験させることができた。特に秋は落ち葉や木の実を十分に使い、友達や保育者と一緒に遊ぶことができた。また、地域にでかけ自然や人と関わり様々な経験をする事ができている	A	A	・遅番や早番利用者が多いのか。今後も丁寧な連携をとってほしい	・子ども達にとって、豊かな人や物、自然とは何か、遊びを通してどう関わらせていくのか、保育者が子ども達への何を経験させたいのかの願いを共有できるため話し合いを丁寧に行っていく
		一人一人の生活リズムを大切にし、安心して過ごせるようにする	・早番遅番で長時間保育の子どもが多いため、職員間での子どもの様子を共有し、配慮することができた	A	A		・子ども達の体調を保護者と密に行い子ども達が安心安全で過ごせるよう、コードモンや送迎時を活用していく ・早番遅番利用が多いため、職員間の報連相を徹底し、情報を周知することで、子ども達の安心安全を保障していく
		子どもがやってみたいと思える遊び環境づくりを、一緒にやっている	・一人一人の姿から「やってみたい」遊びを見取り、子ども達と話をしながら一緒に環境を整えることができた。一方で子どもの思いを待ちすぎてしまったり、環境の再構成が遅すぎてしまったりするところもあった	A	A		・職員間で互いの保育を語り合い理解し合うことで、「やってみたい」環境作りについてアイデアを出し合ったり、子ども達の姿を共有できるため、環境の再構成に幅が広がってくる ・遊びの中で、物の特性や扱い方などを学び、大切に扱うこと、片付けなどの生きるために大事な力を育てていけるように、職員も自分の保育を見直し教育保育を行う
2全管理・指導	安(1) 事故防止・防災	多様な災害や事故の情報を共有し、職員全員で安全な園生活を保障する	・避難訓練や不審者訓練を様々な想定の中で実施することができた。また、減災教育から、カエルのポーズや避難の仕方等の見直しを始めている	A	A	・減災を意識して行ってほしい ・まず命を守る意識を身に付けさせたい。このことは是非お願いしたい	・減災教育について保育者が学び、根本的な訓練の見直しを行っていく ・訓練後の反省課題からスピード感をもって改善し、職員間で共有する
3健康管理・指導	保(1) 健康教育の充実	食べることを楽しみ、食べも物への興味関心を持つ	・野菜の栽培や収穫、クッキングを通して食べることへの楽しさをもつことができた。また、調理員が乳児の離乳食介助や幼児の食事指導、クッキングの手伝いを通して食への興味関心が高まった	A	A	・わが子は、料理番組に興味をもち始めている。園での食育やクッキングが生きているのではないかと ・調理員の取り組みが良い、専門性を持ち子どもに関わって欲しい。食に興味を持ってほしい	・次年度も栽培やクッキングを通して食べることを楽しんでいく。クッキングだけでなく、食べ物の特性への興味づけを行っていく。（三食キッズ・劇・工場見学等） ・地域の特産物への興味関心が持てるような活動を食育活動に取り入れる
4別支援教育・保育	特(1) 支援体制づくりの推進	個別の支援計画に基づき、職員間で共有し、継続した対応をしている	・サポートプランを基に職員会議で関わりを相談したり、個別支援計画を職員に開示したりして共有し関わっている	B	B	・職員の連携や子どもの姿の共有、行事の内容についての変更の周知、研修についての課題が出ていた。働き方が様々で全員が集まり会議や研修ができないとのことだが、学校はクロムでデーターを共有し連携をとっている。もっと市に働きかけ、ICTをもっと進めていき情報共有強化をした方がいい。それが、働き方改革にもつながっていくと思う	・支援方法の共有は出来ているため、関わる保育者の悩みを出し合う場を作っていく
5組織運営	組(1) 組織体制の充実	自分の分掌に責任をもち、企画を立て互いに発信しながら、職員で連携して行う	・分掌リーダーが中心に取り組むことができていたが、内容や変更が全職員への周知徹底しないこともあり、発信の仕方に課題があった	B	B	・園内研修での「やってみたいマップ」は毎年の研修が積み重なっておりすばらしい。先生方は自分たちができていないと思っているが、部屋を回らせてもらったが、各クラス遊び場づくりができていていると思う	・見通しをついた計画（冊子での各分掌とのつながりやバランス）をもち昨年度の反省を参考に各リーダーが中心となって進めていく。内容についてや、途中での変更、進行状況については昼の打合せや、打合せの報告、事務室の掲示を利用して行う体制を構築させる
6研修	(1) 研修体制の充実	園内研修で、もっとやってみたい遊び場づくりについて、互いに学び合う	・やってみたいマップを歳児ごとに改めて見直すことができた ・公開保育を年間通りに実施し、学び合うことができたが、遊び場づくりは十分ではなかった	B	A	・教材研修は今年度の反省を活かして来年度行ってほしい	・公開保育の研修だけでなく、研修部での話し合いを増やし、園の保育に必要な事についての園内研修を計画する ・研修テーマや手立て、遊び場づくりについてなど話し合う機会を作っていく
7教育・保育環境整備	(1) 教育・保育環境の充実	職員が素材や教材の使い方、遊び方を学び、自身の保育に取り入れる	・講師を招いて、素材や教材について学ぶ機会があり、保育に活かすことができた。 ・教材研究が年間通りに上手く進まなかった	B	B	・1日1組の参加会はとても良い。来年度も丁寧に保護者と向き合ってほしい。地域で育てるという意識をもって取り組んでいってほしい	・教材研究は来年度も行っていきたいが、午睡時を活用しないと会計年度職員が参加できないため、時間の確保を工夫していく
8家庭との連携・協力	(1) 家庭教育への支援機能の充実	保護者と育ちの共有をしたり悩みや相談に応じたりし子育てと一緒に楽しむ	・日々のコミュニケーションや1日一人の参加会・面談や秋には希望面談、懇談会を行い保護者の思いや悩みに傾聴し、内容によっては手立てと一緒に考え、子育てを支えることができた	A	A	・近隣園は来年度から少なくなってしまうが、行事でつながるのではなく遊びを通してつながり、親しくなってほしい	・引き続き、保護者との面談や参加会、懇談会等を必要に応じて丁寧に ・ICTを活用しながら、子ども達の育ちを保護者に伝えていく
9近隣の学校との連携	(1) 近隣の園との連携の推進	公開保育を行い情報共有をしている、また近隣の園小と交流する機会を設け、関わる力を深めている	・公開保育に支部の園長先生を講師として招いて指導講評いただき、保育の質の向上を図った ・由比・入山こども園や中学生徒の交流する機会が増えた	A	A	・地域のコディネーターもできるので、サポートします	・コミュニティスクールがR7年度よりスタートとなるため更に関わりを深めていく ・休み時間頃に小学校へ散歩にいく行くなど工夫しながら、交流を広げた行きたい
10地域との連携	(1) 信頼される園づくりの推進	地域の文化や自然、物産物等を見たり聞いたりして地域を学ぶ体験、経験をする	・様々な機会を作り、子ども達が地域の文化や自然や物へ関わり、直接体験を重ねることができ、親しみ始めている	A	A		年間を通して地域との交流体験ができることで、文化、自然、人親しみをもち、遊びの中に取り入れていけるよう今まで以上につながる。また、地域への発信も行っていく